

公益社団法人日本地球惑星科学連合
2026 年度(令和 7 年度)第 3 回理事会議事録

1. 開催日時 2026 年 7 月 28 日(火)13:00-16:10

2. 開催場所 Zoom によるオンライン会議

3. 出席者 理事数 30 名
 出席理事 21 名 (定足数 16 名 会議成立)

4. 議 長 理事 小口 高

5. 出席役員

理事 小口 高

理事 河宮 未知生

理事 阿部 なつ江

理事 成瀬 元

理事 南 雅代

理事 道林克禎

理事 ウォリス サイモン

理事 市井 和仁

理事 大谷 栄治

理事 岡崎 裕典

理事 小口 千明

理事 瀬瀬 佑衣

理事 後藤 和久

理事 島村 道代

理事 高木 聖子

理事 瀧川 晶

理事 田近 英一

理事 辻森 樹

理事 早川 裕弐

理事 宮嶋 敏

理事 安中 さやか

監事 甲良 好夫

オブザーバー

情報システム委員会委員長 興野 純

環境災害対応委員会委員長 宮地 良典

グローバル戦略委員会副委員長 古市 剛久

宇宙惑星科学セクションプレジデント 三好 由純

宇宙惑星科学セクションバイスプレジデント 大塚 雄一

大気水圏科学セクションプレジデント 野中 正見

地球人間圏科学セクションプレジデント 山野 博哉

固体地球科学セクションプレジデント 沖野 郷子

審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

・定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議した。これを承認した。

第 2 号議案 業務執行理事及び副会長選任の件

・河宮 未知生理事、阿部 なつ江理事、成瀬 元理事、南 雅代理事、道林 克禎理事、掛川 武理事、沖 大幹理事、和田 浩二理事 8 名を業務執行理事に選任することを審議した。検討の結果、承認した。

前回承認された河宮未知生理事に加え、阿部なつ江理事、成瀬 元理事、南 雅代理事を副会長に選任することを審議した。検討の結果、承認した。

第 3 号議案 新委員承認の件

・各委員会の委員を、それぞれの委員会から提出された名簿をもとに審議した。案の通り承認した。正式な任期は 8 月 1 日からとなる。また、参考資料として各小委員会の新委員名簿を回覧した。

3. 報 告 事 項

1. 小口 高代表理事 職務報告

○AOGS2026 に関する報告があった。JpGU は AOGS2026 にブースを出展する。今回、ブースは基本的には事務職員のみで対応できるが、研究者が対応することにも意義があるため、可能な方はご協力をいただきたいという依頼があった。

2. 河宮 未知生理事 職務報告

○副会長としての職務について報告があった。

- ・小口会長を補佐し今期の体制について検討した。
- ・AGU とのジョイントミーティングについて、引き続き財務業務を担当している。参加登録料、投稿料、スポンサー料について、取り決めに基づいて AGU に支払う金額の算定を行っている。

○年会費の値上げに関する検討の準備について報告があった。

- ・背景として、大会開催費以外の、固定費を主とする間接経費についての説明があった。
- ・年会費の金額については、最終的には社員総会の審議事項となるという説明があった。
- ・田近理事より、これまでは会員を増やすため、また他の学協会との競合を避けるため、年会費の増額は実施されなかった経緯が説明された。ただし 20 年来値上げをしておらず、改訂する時期に来ているかもしれないという意見が述べられた。
- ・大谷理事より、年会費と大会参加登録料との関係について質問があった。河宮副会長より、大会参加登録料は年会費とは切り離して別途検討することになるだろうという説明があった。
- ・和田理事より、年会費を値上げすることは大会参加登録料と投稿料の固定費に対する負担の軽減につながるという説明があった。
- ・島村理事より、AGU などの他の国際学会と JpGU との財政構造の違いについて質問があった。河宮副会長より、AGU は出版事業などの多くの事業で収入があり、またそれを支える事務局の人的資源も豊富であるという回答があり、また田近理事より、AGU は出版に加えて年会以外の大会や資産運用などでも大きな収益を上げているという補足があった。
- ・大谷理事より、JpGU は年会費を抑え大会収入を上げるという方式で成功してきたものであり、増額する場合でも極端な増額は避けるべきであるという意見があった。
- ・宮嶋理事より、小中高教員にとっては安価な年会費で大会に参加できるというのは魅力的であり、値上げ幅が低ければ次回も勧めやすいという意見と、一方で長年値上げせずにきたことを考えると値上げはやむを得ないとも考えられるという意見が述べられた。

3. ウォリス サイモン理事 職務報告

○Joint Meeting に関する報告があった。

- ・タスクフォースやグローバル戦略委員会と連携して活動を行った。

4. 総務委員会活動報告（道林理事）

- ・後援・協賛の報告があった。
- ・事務局新職員東濃氏が5月理事会の後着任し、直後の大会、またそれ以降も活躍をしている。
- ・AI使用のガイドラインを作成するためのタスクフォースを設置することを検討している。関連委員会から委員を選任していただき、総務委員会がハンドリングをする予定である。
- ・情報セキュリティ対策を検討するためのタスクフォースを設置することを検討している。同様に総務委員会がハンドリングをする予定である。

5. 財務委員会活動報告（掛川理事）

- ・掛川理事より、大会収支決算書に関する報告があった。大会の後援・協賛団体へ提出するために作成したものである。
- ・また、財政状況改善のため、総務担当と財務担当が密接に協力する必要があるという提案があった。

6. 大会運営委員会活動報告（和田理事）

○2026年大会の報告があった。

- ・今大会の特徴として、JpGU-AGU Joint Meeting、参加者の多様化促進、紙コップ廃止、現地口頭発表形式、Network Get Together 開催が挙げられる。
- ・セッション提案・採択・開催数については2025年大会より約14%増であり、Eセッションは76%であった。
- ・投稿の採択数は6,006件で、コロナ前も含めて史上最多であった。うち口頭は2,960件、ポスター発表は3,046件、また英語発表は4,915、日本語の発表は1,091件と英語発表割合は83%であった。
- ・参加登録者数は10,321名、現地来場者数は8,946名であった。
- ・国/地域別参加者数では、台湾373名、USA351名、韓国161名等であった。
- ・現地ポスター掲示率は約92%であり、逆に8%程度の方がオンラインでのポスター発表であった。
- ・大会での写真が紹介された。
- ・大会終了後のアンケート調査の結果が示された。調査の結果、全体満足度が73%、「目的を部分的以上に達成」が97%、「ハイブリッド継続に賛成」が80.1%など、概ね好評であった。英語化の方向性については、「目的・参加者に応じた柔軟な選択」を求める回答が多かった。投稿料・参加登録料の評価については、52.8%が「妥当」と

の回答である一方 43.1%が「割高」であった。一日券を設定してほしいという声もあるが、オンラインで参加できることを考慮すると一日券は採用まで至っていないという説明、オンラインオンリー券については今後検討できるという説明があった。次回大会にむけ、参加者サービスと環境対応、参加費と参加区分、言語方針、会場・発表環境、ハイブリッド運用などの検討事項が挙げられた。

- ・アンケート調査結果とは別に、大会運営委員会で抽出した課題が挙げられた。

○2027 年大会の準備状況の報告があった。

- ・課題として、システムの入替え、日本気象学会の迎え入れ、ジョイント大会特有制度の継続の有無、参加者多様化促進、懇親会、紙コップ廃止継続の有無が挙げられた。

- ・プログラム委員長他体制の報告があった。

- ・今後のスケジュールについて説明があった。

○以下、検討を行った。

- ・小口会長より、展示ホール特設会場の音声の改善について質問があった。和田理事より、音響スタッフを各会場に配置し、適切な音量を維持したという説明があった。

- ・岡崎理事より、大きなセッションへ誘導した方が編成上よいのではないかという提案があった。インセンティブの例として大規模セッションは二日間ポスターを掲示できるなどの案が挙げられた。

- ・瀧川理事/プログラム委員長よりセッションのマージの必要性についてはスコープによって判断しているという説明、またコンビーナや参加者にとって何が優先かを考える必要があるという説明があった。小口会長より、同内容で日本語と英語の両方を開催するセッションについては、異なるニーズに答えるためのものであり、発表者・聴衆が異なるという説明があり、瀧川理事/プログラム委員長より、それであるならスコープにその旨がわかりやすく記載されていると、プログラム委員会でもマージせずに両立させるという判断がしやすいという意見が述べられた。

- ・瀧川理事/プログラム委員長より、英語化の方針について質問があった。小口会長より、2026 年大会ではグローバル戦略委員会から提案などがあり、それらを踏まえて決定されたという説明があり、今後もグローバル戦略委員会とも密接に連携してほしいという説明があった。また強制すべきことではないのでその点には注意する必要があるという説明があった。

- ・和田理事より、セッションマージの方針についてはプログラム委員会の所掌であるという説明があった。

- ・コンビーナの最大数を 6 名のまま維持するかどうかについて議論した。原則 4 名として、ダイバーシティ推進の事情があれば 6 名とする、などの案があがり、システムや実務的な面も含めて大会運営で検討することとなった。

7. グローバル戦略委員会活動報告（沖理事）

○古市副委員長より、代理で開催報告があった。

- ・7月7日にグローバル戦略委員会を開催した。会議では沖理事/委員長より、新体制の説明とともに、これまでのグローバル戦略委員会の活動内容や成果について説明があった。また、英語推進に関する大会準備アンケート調査結果をもとに、国際化の阻害要因や解決策について議論がなされた。EGU2026 の出展報告、JpGU-AGU Joint Meeting と Friends Area の開催報告、International Mixer Morning Reception 開催報告、Global Geoscience Societies' Leadership Meeting 開催報告、プロモーションムービーの作成報告があった。また、AOGS2026 の出展予定について報告があった。

- ・小口千明理事より、大会の英語化に関連し、DeepL の同時翻訳機能（voice for meeting）について情報提供があった。

- ・小口会長より、グローバル戦略委員会は理事会に先立って開催されているので、国際化について今後も提案していただくことが期待されるという意見が述べられた。

- ・古市副委員長より、今後の大会でもコンビーナの数は最大 6 名とするのがよいのではという意見が述べられた。

8. 広報普及委員会活動報告（田近理事）

○広報普及関連の活動報告があった。

- ・JGL 編集小委員会では JGL8 月号の編集を進めている。新体制紹介、大会開催報告、各賞受賞者の紹介、フェローの記念原稿等を予定している。

- ・広報活動小委員会ではメールニュースの編集を進めている。新体制の紹介も予定している。

- ・小委員会の下で様々な業務を担当しているチームが活動している。新たに国際広報チームを設ける。

- ・ホームページのメディアライブラリーのページに各種講演の動画が掲載されているが、しばらく更新が止まっていた。2026 年大会を機に、プレナリーレクチャーや過去の高校生向け講演会などの動画をアップロードした。

9. 環境災害対応委員会報告（松四理事）

○宮地委員長より代理で報告があった。

- ・新担当理事を迎え、新たな体制を整えて活動を進めている。

- ・webを整備し災害等に対し情報を提供している。
- ・ぼうさいこくたいの参加準備を進めている。
- ・ユニオンセッションの提案準備をしており、防災連携体とも連携を進めている。

10. ダイバーシティ推進委員会活動報告（小口千明理事）

○ダイバーシティ推進関連の報告があった。

- ・大会時のイベント、委員会開催、セッション開催の報告があった。
- ・EGUにおけるEDIの取り組みについて紹介があった。ファミリースペース、Inclusivityへの取り組みとしてリボンの色による工夫、EDI賞について紹介があり、JpGUでも検討したいという説明があった。
- ・若手小委員会の報告があった。
- ・今後の活動予定として、女子中高生夏の学校への出展、委員会開催、次期大会での保育等イベントの準備、EDI賞の検討の報告があった。
- ・一般社団法人男女共同参画学協会連絡会の活動について紹介があった。大規模アンケートなどが予定されている。また、2026年11月から1年間、JpGUが担当学会（第25期）となる。過去には第6期でも担当した。当時から運営体制が効率化した。前もって準備を進めていく必要がある。10月には連絡会シンポジウムを開催する。
- ・EDI賞については今後ダイバーシティ推進委員会で検討し、原案などを作成したのちに顕彰委員会に諮ることを考えている。

11. 教育検討委員会活動報告（宮嶋理事）

○小中高教員のための地球惑星科学教育研修の準備状況の説明があった。

- ・5件を開催する。夏休みに開催される最少催行人数に達した4件は実施する。10月開催予定の講座は募集を続ける。

12. 情報システム委員会活動報告（村山理事）

○成瀬理事より代理で報告があった。

- ・会員管理システムと予稿投稿システムのリプレイス準備を進めている。
- ・惑星科学会がJpGUの会員管理システムを利用することを検討しており、システムを対応させることを準備している。次回の理事会で提案する予定である。
- ・RDM-TFについて、これまでタスクフォースとして国内機関のデータリポジトリ状況の調査やJSTのGRANTS DATAへの提案を行ってきたが、今後はオープンサイエンス小委員会として定常的に、国内およびAGU、EGUなど国際対応を行っていく。

13. ジャーナル関連活動報告（後藤理事）

○後藤理事よりジャーナル関連の報告があった。

・編集委員会会議を開催した。Springer Nature から、日本オフィスへ編集拠点を移す件について提案があったが、国際性を鑑み従来通りドイツベースを希望するという返答をした。

・Impact Factor について、2 年が 3.6、5 年が 4.2 と上昇した。Cite Score は 4.8 に下がったものの、回復の見込みである。

・投稿出版状況は昨年に比べ減少しているが、遅れを取り戻すことで例年並みになることが予測される。

14. 顕彰委員会活動報告（関理事）

○事務局より代理で報告があった。

・学生優秀発表賞の受賞者を発表した。現在は副賞の送付準備を進めている。

・JGL に掲載するフェローの記事を準備している。

15. JpGU-AGU JM TF 報告（末広国際コーディネータ）

○ウォリス前会長より代理で『JpGU-AGU Joint Meeting2026 に向けての国際企画タスクフォース』の活動報告があった。

・プレナリーレクチャーやムービー作成などの企画を立て、実行した。

・数値目標を立て、達成した。

・声明を発表することを検討している。

以上

議長は以上をもって、すべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した（午後 16 時 10 分）。

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事は次に記名・押印する。（捺印欄配布時省略）

2026 年 7 月 28 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 3 回理事会

出席理事 小口 高 印

出席理事 河宮 未知生 印

出席理事	阿部	なつ江	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	南	雅代	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	大谷	栄治	印
出席理事	岡崎	裕典	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	瀬瀬	佑衣	印
出席理事	後藤	和久	印
出席理事	島村	道代	印
出席理事	高木	聖子	印
出席理事	瀧川	晶	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	辻森	樹	印
出席理事	早川	裕弐	印
出席理事	宮嶋	敏	印

出席理事 安中 さやか 印

出席監事 甲良 好夫 印